様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2025 年　　1 月　　17 日

１．職名・氏名　　准教授　東知宏

２．学位　　学位　　修士　、専門分野　　看護　、授与機関　　兵庫県立大学　、
　　授与年　　平成 22 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 **看護理論**（2）：1 年次
②内容・ねらい １．主要な看護理論にふれ、それらを基に看護の中心的概念について考究する ２．複雑かつ困難な看護現象に対して、看護理論を活用することによってその現象を明確にし質の高い看護実践ができる能力を養う
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・看護理論について、グループワークに基づく発表形式をとることにより、理論それぞれの特徴について主体的に学習できるよう工夫を行った。 ・各理論のポイントについてまとめを行い、各学生の学びをより強固なものにできるよう図った。 ・プレゼンテーション形式とし、ディスカッションにより理論の理解を深めることができた。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 **基礎看護技術**（2）：1 年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指し、対象の生活過程を健康的に整えるための基本的な表現技術、観察の技術および安楽に整える技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。 ・基本的な看護技術の修得度を、実技試験を行うことで確認した。実技試験後は評価を伝え、改善すべき点の確認を行った。 ・学生によるデモストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。 ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。 ・単元終了後に知識の修得度を小テストで確認した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 **臨床看護技術**（2）：1 年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指す。対象の生活の質や日常生活活動を向上させるために欠かせない日常生活の援助に関する看護技術（排泄援助）および感染予防の技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、症状・生体機能管理技術、与薬の技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。 ・基本的な看護技術の修得度を、実技試験を行うことで確認した。実技試験後は評価を伝え、

改善すべき点の確認を行った。
・小グループに対して教員がデモストレーションを行い、技術のイメージ化を促した。
・学生によるデモストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。
・緊張感のある事例展開を目的とし、演習にロールプレイを導入した。
・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。
・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストおよび実技テストで確認した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
看護過程展開論（1）：2 年次

②内容・ねらい（自由記述）
対象に適切な看護を提供するために必要な情報収集・アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価修正の一連の流れについて学び、看護を展開する能力を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
・看護過程の展開に必要な思考（問題解決型思考、クリティカルシンキング）について説明することにより、効果的な看護計画を立案できるよう教育した。
・事例を用いながら一連の過程を説明することにより、学生の理解が深まるよう工夫した。
・数事例についての看護過程の展開を双方向型の講義で実施することにより、学生自身が現在の自分の立ち位置を理解できるようにした。
・次に続く実習に向け、実習記録の書き方と同様の書式にすることで、学生の実習に対する不安軽減を計った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
保健統計学（2）：2 年次

②内容・ねらい（自由記述）
集団における健康科学の方法論について学ぶ。科学論の基礎、確率、統計、疫学、人口統計について学ぶ。記述統計、統計的推論の手法を解説し、人口・疾病統計や臨床研究など、看護や保健活動の場でどうのように活かすかを学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
・苦手な学生が多い統計や数値の解釈方法について、身近な例を用いながら説明することで学生の理解を促した。
・講義後には保健師国家試験の問題を使用し、実際に出題される試験問題をイメージできるようにした。
・3 年次に開講する看護研究方法論につながる内容であるため、段階を踏んで内容を理解できるよう、講義に連続性をもたせた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
フィジカルアセスメント（1）：2 年次

②内容・ねらい（自由記述）
人間の全身の状態を的確に把握するために、系統的に行う身体診査であるフィジカルアセスメントの意義や具体的方法(フィジカルイグザミネーション)を学習する。さらに、看護過程を展開する技術を学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。
・演習では呼吸モデルなどのシミュレーション器材を用い、人体の正常と異常との違いを判断できるよう工夫した。
・学生によるデモストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。
・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。
・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストで確認した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
基礎看護学実習Ⅰ（1）：1年次

②内容・ねらい（自由記述）
看護が機能する場である病院の概要を知るとともに、対象の療養生活の場としての入院環境に対する理解を深める。看護の対象・看護の実際を理解し、看護学生として必要な態度を身につける。生活過程の援助を中心とした対象とのかかわりを通して、対象への感性および表現技術を高める。既習の看護理論と看護の実際を照らし合わせ、看護の果たすべき役割･機能について考える。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
・体調管理、身だしなみ、態度などの基本事項を指導し、自身の看護師としての姿勢について考えることができるよう促した。
・学生が学びやすいよう、実習環境（医療スタッフとの連絡調整、必要物品の整備等）を整えた。
・学生個々の進捗状況に合わせた個別指導を行った。
・グループカンファレンスを通して学生個々の学びをグループメンバーで共有した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
基礎看護学実習Ⅱ（2）：2年次

②内容・ねらい（自由記述）
対象の個別に即した看護を認識し、計画的に看護を実践、評価するという看護過程を展開するための基本的能力を修得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
・実習施設を1施設から3施設に変更し、コロナ感染者の発生に対応できるようにした。また各実習施設の受け入れ学生数を減らすことにより、学習効果の向上と受け入れ施設の負担軽減を計った。
・体調管理、身だしなみ、態度などの基本事項を指導し、自身の看護師としての姿勢について考えることができるよう促した。
・学生がまなびやすいよう、実習環境（医療スタッフとの連絡調整、必要物品の整備等）を整えた。
・学生が患者の個別性を踏まえた看護実践を展開することができるよう、個々の進捗状況に合わせた個別指導を行った。また、患者との関わりが不得意な学生に対しては、教員が一緒に患者と関わるなどのサポートを行った。
・グループカンファレンスを通して学生個々の学びをグループメンバーで共有した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
看護研究方法論（1）：3年次

②内容・ねらい（自由記述）
看護実践における研究の必要性、演繹的アプローチ・帰納的アプローチによる研究の特長と具体的方法について修得する。主に実験研究・調査研究、質的研究について概説し、実際の研究論文を用いて研究手法の基礎知識を深める。また、人を対象とする看護研究の研究倫理を理解し、具体的に研究の倫理的配慮の方法を修得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
・研究を行うための入念な文献検索および文献検討について、学生自身で関心のある文献を探し、クリティークすることにより、学生の興味を引くことができた。
・実験研究に関する講義においては、実際の論文をクリティークしながら説明することにより、実験研究の手法や結果の読み解き方を教授することができた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業研究（3）：4 年次

②内容・ねらい（自由記述）
講義や実習経験を踏まえ、医療・健康に関する現象について研究課題を明確にしたうえで、文献検討、観察・調査・実験などの研究方法を用いて論文を作成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
・ゼミ形式での文献クリティークを行い、研究課題の明確化を促した。
・研究計画書の作成では、研究として成立できるか、実現可能かを確認しながら指導を行った。
・適切な実験手技を習得できるよう、プレテストを繰り返し実施した。
・論文の作成では整合性が取れているか、一貫性があるか確認を行い、指導した。
・研究結果のプレゼンテーションでは、要点を的確に表現できているか内容の確認を行った。

(2)その他の教育活動

内容
・臨床看護研究指導（病院で行われる看護研究の発表までの指導を実施、福井循環器病院）

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【　本】
②学術論文（査読あり） 【　本】
③その他論文（査読なし） 【　本】
④学会発表等 【　件】
⑤その他の公表実績 . 【　本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
2024 年度福井県立大学看護福祉学部 KF 枠研究費 ヨガ受講者の腸内細菌叢と食習慣の特徴
(3)特許等取得
(4)学会活動等
・日本看護研究学会近畿・北陸地方会委員 ・日本看護研究学会セミナー委員 ・福井県看護協会学会委員 ・第 40 回福井県看護学会パネルディスカッション司会（令和 6 年 9 月 7 日、福井） ・第 37 回看護研究セミナー企画、運営（令和 6 年 12 月 21 日、オンライン開催） ・コ・メディカル形態機能学会第 23 回学術集会・総会事務局員

５．地域・社会貢献活動

・岡保地区未来づくり協議会委員（岡保地区における地域活性化に関わる検討および啓発活動の実施、看護の専門家として参加、令和元年４月～現在に至る） ・福井県看護協会での臨床指導者講習会「看護過程」担当（令和３年～現在に至る） ・公開講座「手洗いの科学」（令和６年後期　オンデマンド配信）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・情報教育・DX 委員（令和３年４月～現在に至る） ・SIM・ICT ワーキング（令和４年４月～現在に至る） ・カリキュラム委員（令和６年４月～現在に至る）
(3)学内行事への参加
・オープンキャンパス看護学科主担当（令和６年８月４日） ・入試説明会高志高等学校担当（令和６年９月 27 日）
(4)その他、自発的活動など
・状況特定理論研究会（兵庫県立大学、令和３年４月～現在に至る）